犬の飼育者に対する
犬の問題行動に関する意識調査

東京農工大学　人と動物の共生社会推進プラットフォーム
2023年3月

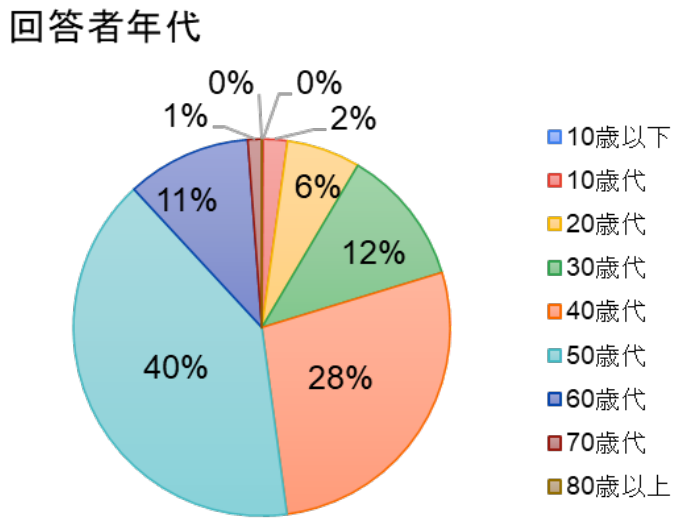
この調査は、東京都の大学研究者による事業提案制度採択事業「大学と自治体、企業、NPO の協働による高齢者の福祉向上を目指した動物との共生社会の実現と拠点形成」により東京農工大学が行いました。

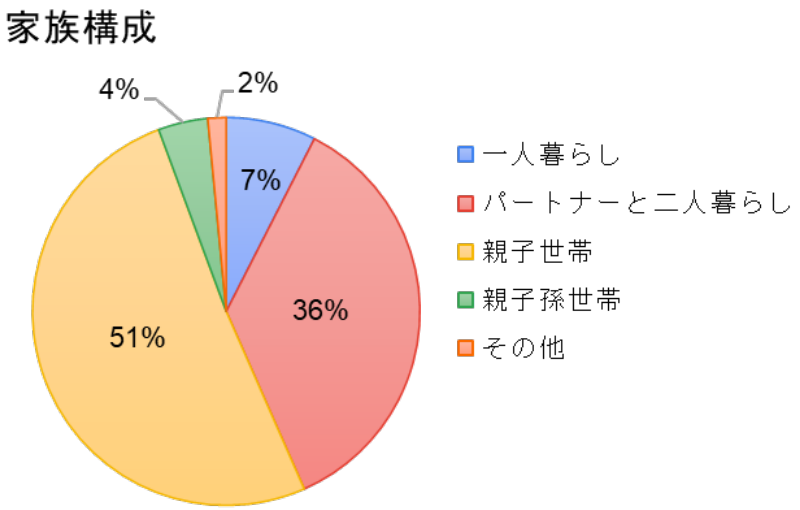
1.調査について

東京農工大学の人と動物の共生社会推進プラットフォームは、犬と暮らす方により良い情報を提供するために、犬と暮らしている方に対し、現在の犬の飼育状況、犬との暮らしの中で特にしつけや問題行動に対して困っていることに関してアンケート調査を行った。

回答者数:９１７名(うち、男性１５３名、女性７５７名、回答なし７名)
調査期間:2020年10月末から2021年7月末まで
調査方法:東京都獣医師会に所属するA会員病院636件に対してアンケートのポスター提示を依頼、来院者がQRコードを読み取ることによりWeb上から回答

回答者属性

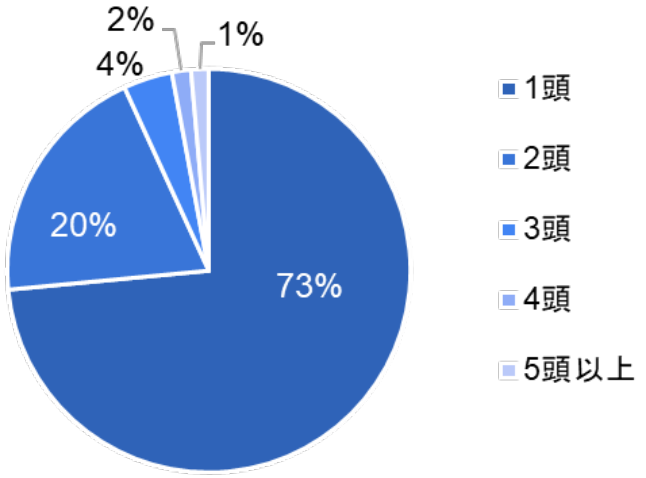




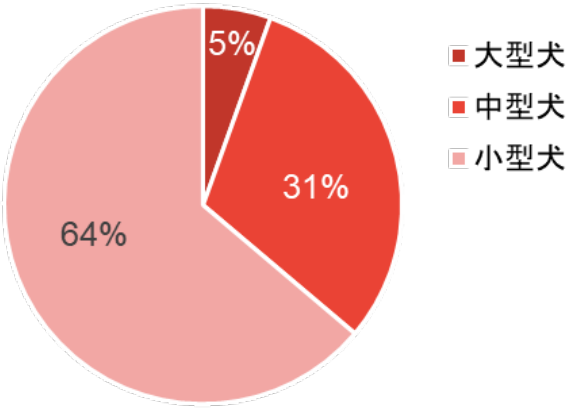
2.回答結果①

何頭犬を飼っていますか？
犬の大きさはどのくらいですか？あてはまるものすべてを選んでください

飼育頭数



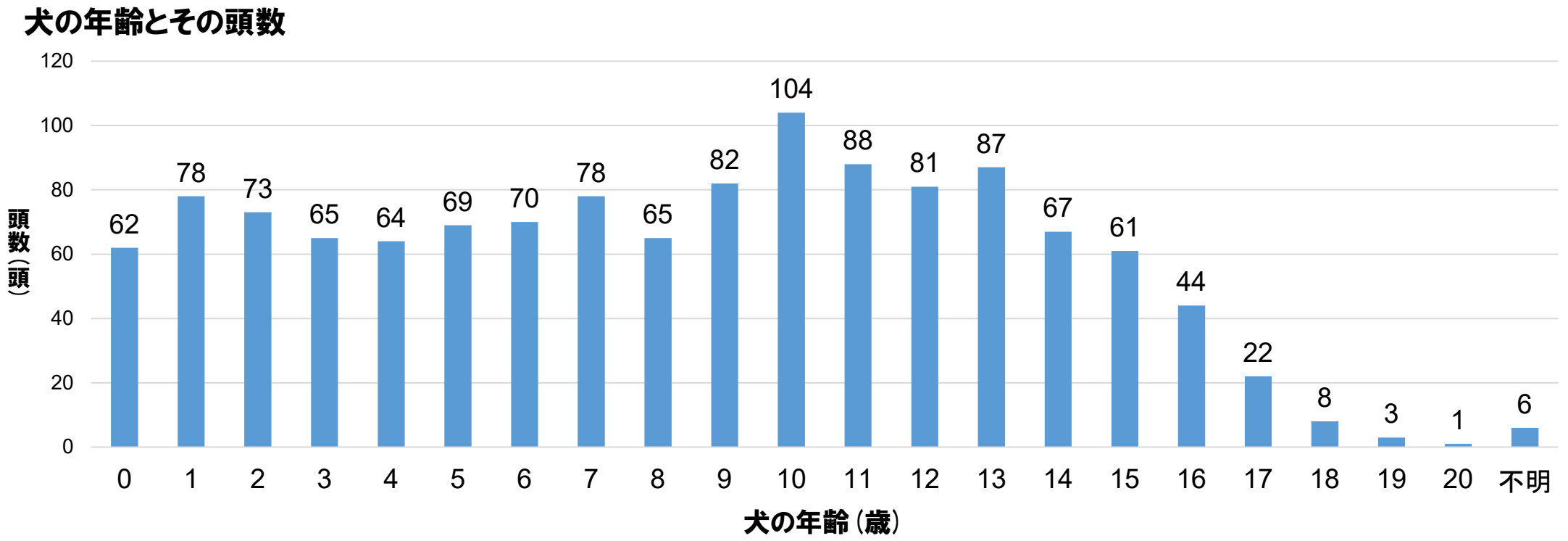
飼育している犬の大きさ



917名の回答者のうち全体の3/4の方は1頭しか飼育しておらず、飼育されている犬の全体の67%が小型犬であった。

2.回答結果②

すべての犬の年齢を教えてください

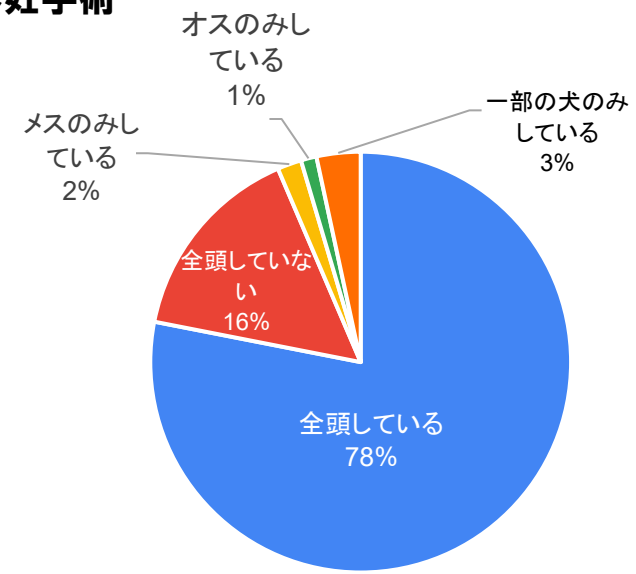


東京都の動物病院に来院する飼い主の場合、犬の年齢は10歳が最も多く、高齢の犬も若い犬も大体同じくらいの数いることがわかる。パンデミックの影響で子犬が多くペットショップから売れていると聞くが、アンケート上はその影響はまだ表れていなかった。

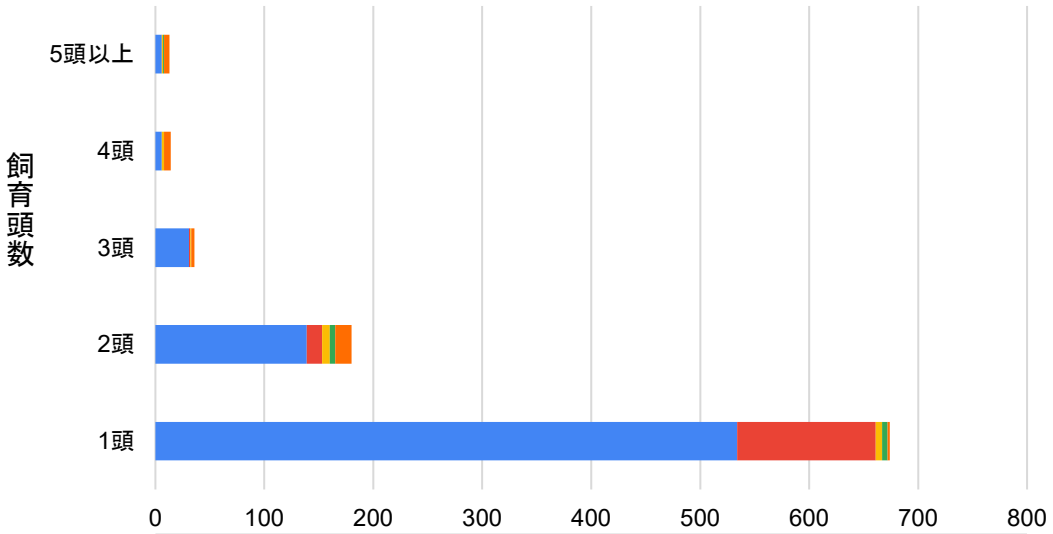
2.回答結果③

避妊手術または去勢手術はしてありますか？

不妊手術



飼育頭数と不妊手術の実施状況

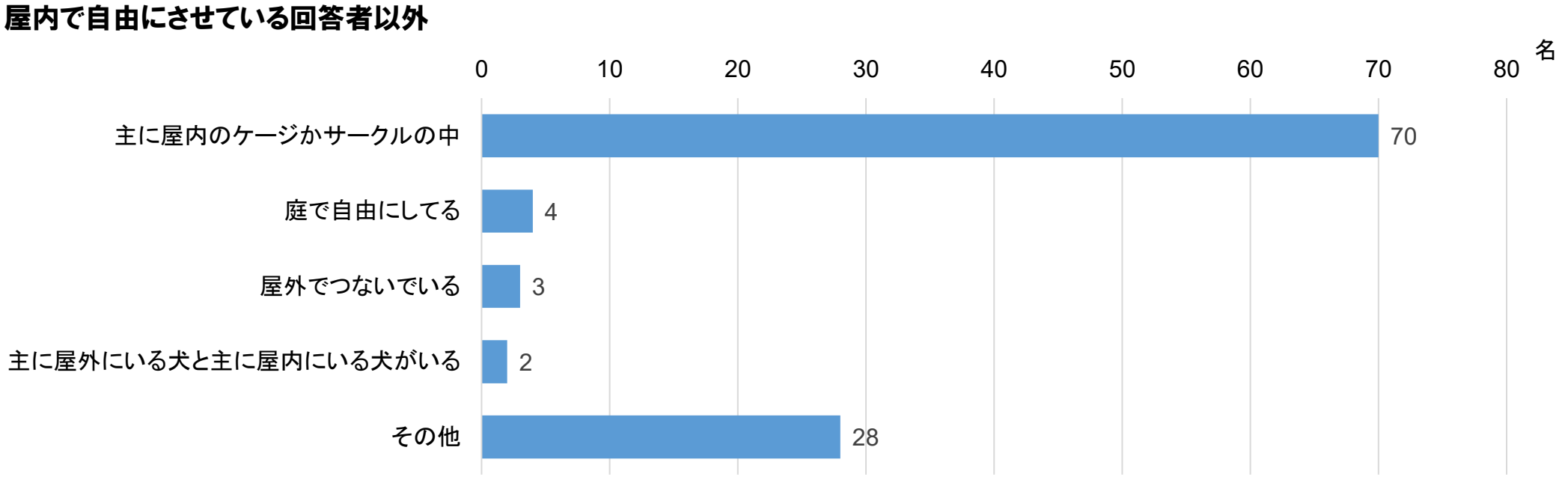


	1頭	2頭	3頭	4頭	5頭以上
全頭している	534	139	31	6	6
全頭していない	127	14	1	0	0
メスのみしている	6	7	1	2	1
オスのみしている	5	5	0	0	1
一部の犬のみしている	2	15	3	6	5

全体の8割近くが不妊手術をしている。複数頭飼育の場合でも不妊去勢手術を全頭にしているわけではない家庭がある事がわかる。

2.回答結果④

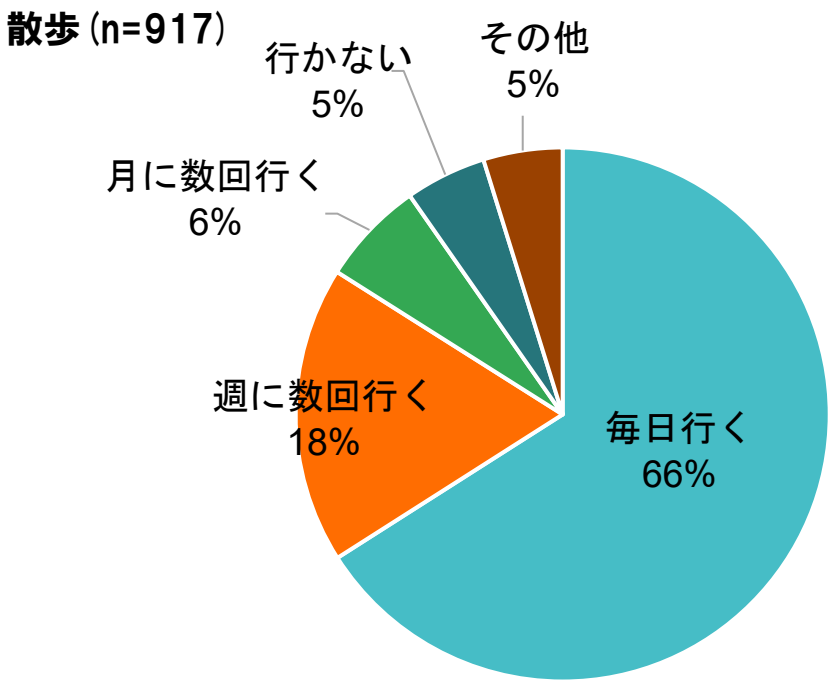
犬を主にどこで飼っていますか？最も当てはまるものを選んでください

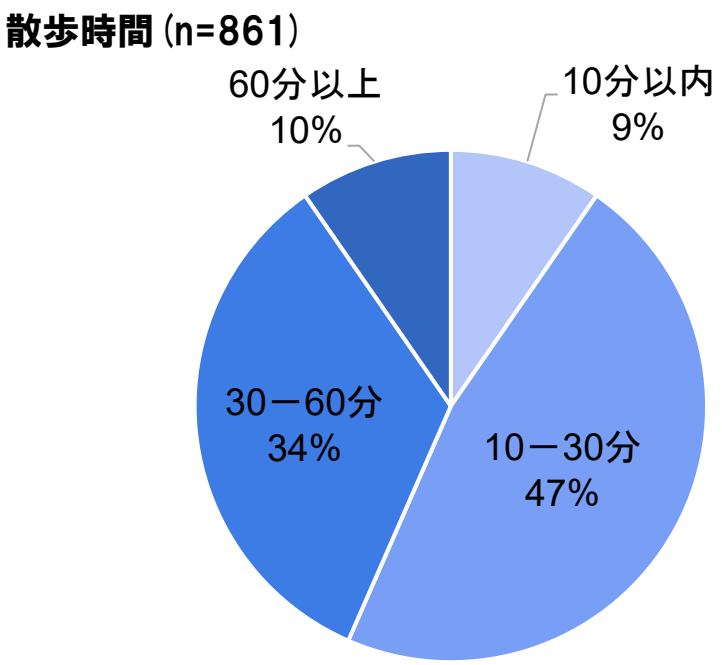


917名中810名(88.3%)が犬を屋内で自由にさせていたが、そのほかの方は屋内のケージかサークルに入れたままと回答した人が70名いた。ペットショップにおける指導なのか詳細がわからないが、犬の福祉を考えた飼育方法に関しての啓発が必要かもしれない。

2.回答結果⑤

散歩はどうしていますか？
散歩に行く方に伺います。1回の散歩時間はどれくらいですか？



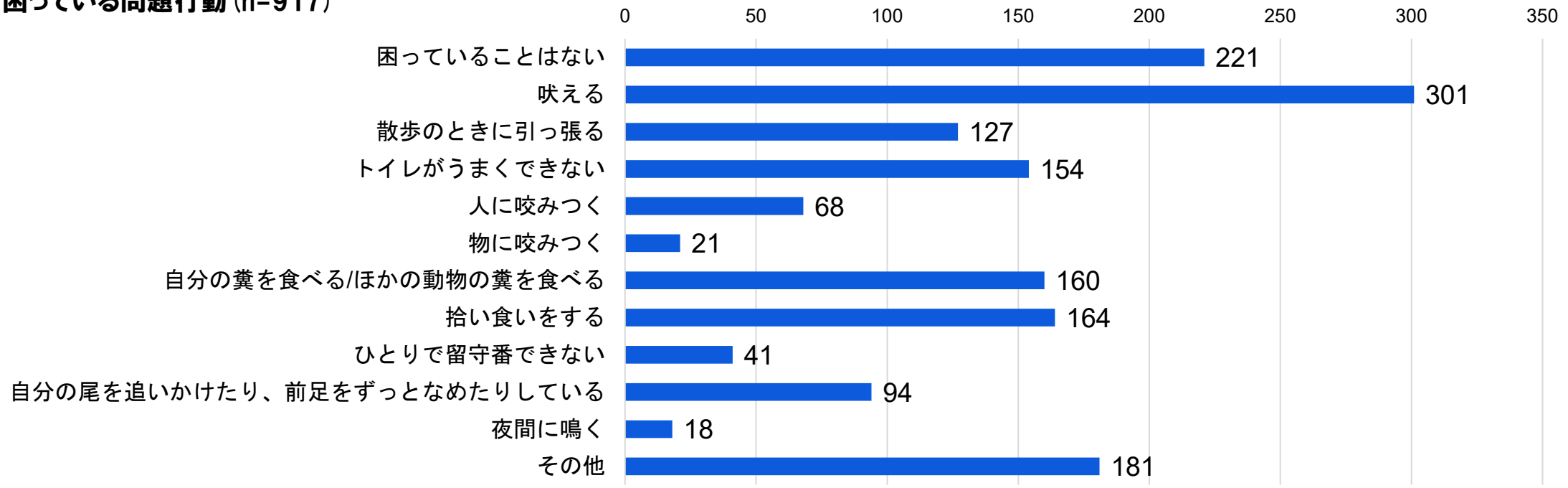


散歩に関しては66%の方が毎日犬を散歩に連れて行っている。連れて行かない人の場合、理由として犬の心臓病のため行かれない、犬の不安が強いため行かれないなどがあげられていた。単に人が面倒だから行かないと回答する回答者はいなかった。

2.回答結果⑥

犬の行動に関して困っていることはありますか？（複数回答可）
困った行動を治したいと思ったことはありますか？

困っている問題行動（n=917）

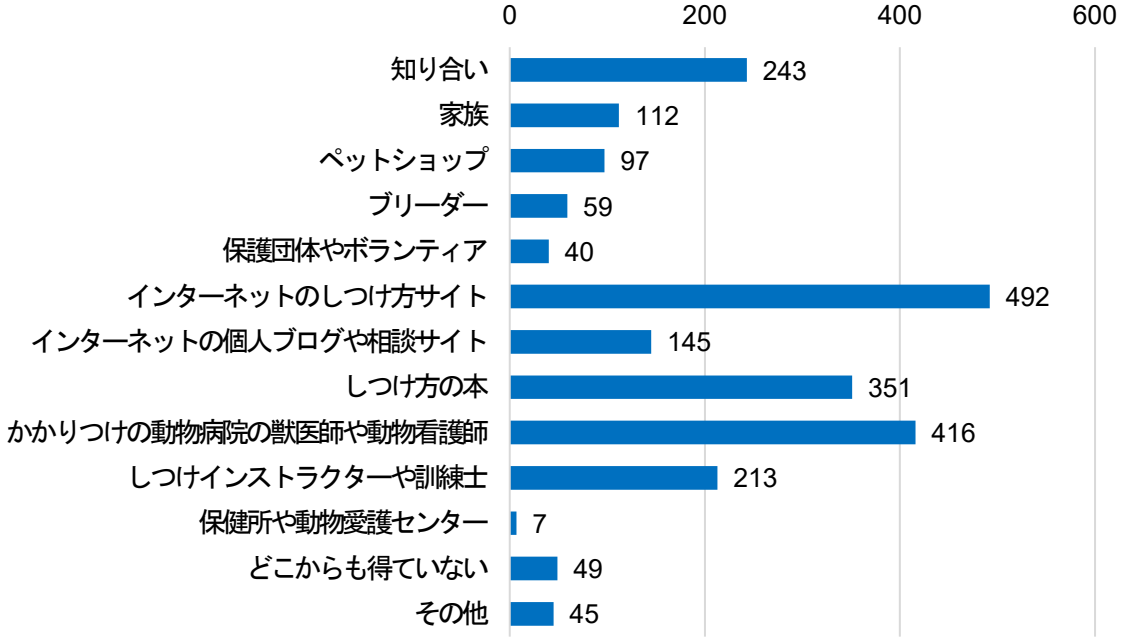


犬の困っている行動に関しての質問に対しての結果は上図のとおりである。全体の3割が「吠える」を問題行動として認識している。犬の問題となる行動に対し、治したいと思っている人は74%であった。

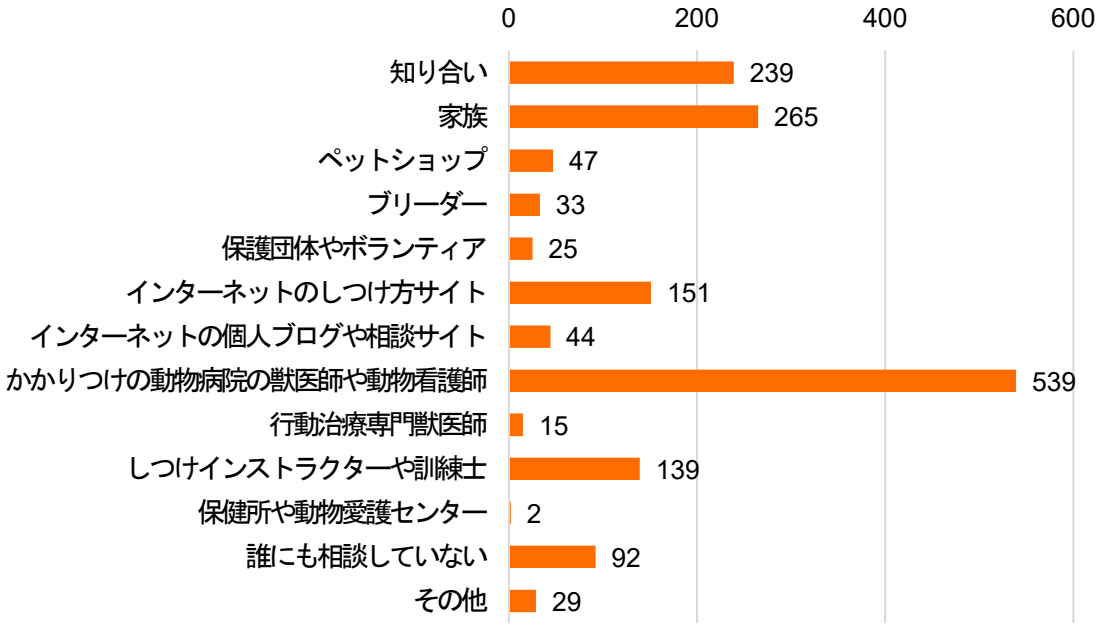
2.回答結果⑦

犬のしつけ方の知識はどこで得ますか？（複数回答可）
行動の問題があった時に誰に相談していますか？（複数回答可）

しつけの知識をどこで得ているか (n=917)



誰に相談しているか (n=917)

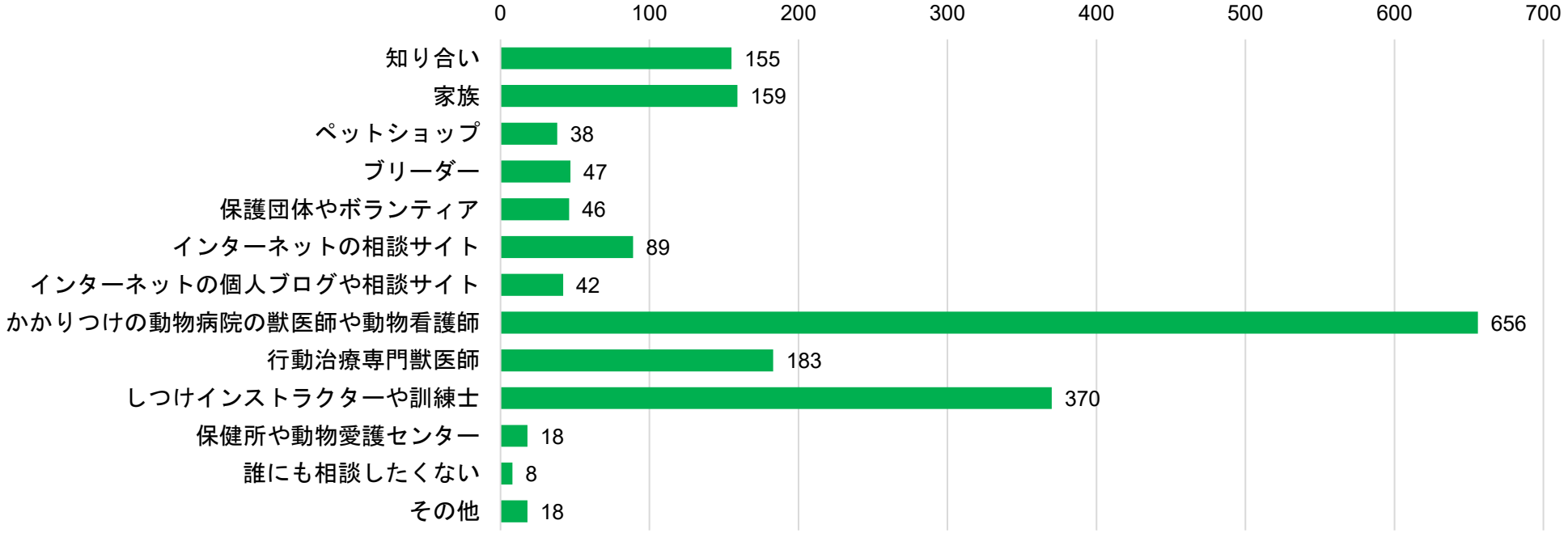


犬のしつけの情報を得るのはインターネットサイトからが最も多く53%の人が見ており、次いで、かかりつけの動物病院となった。相談先としてはかかりつけの動物病院が最も多く全体の45%の人が相談をしている。自治体の保健所や動物愛護センターから情報を得たり相談する人は非常に限られていることがうかがえる。おそらく自治体の相談窓口は最後の砦となっている可能性がある。

2.回答結果⑧

もし行動の問題があった時に誰に相談したいですか？（複数回答可）

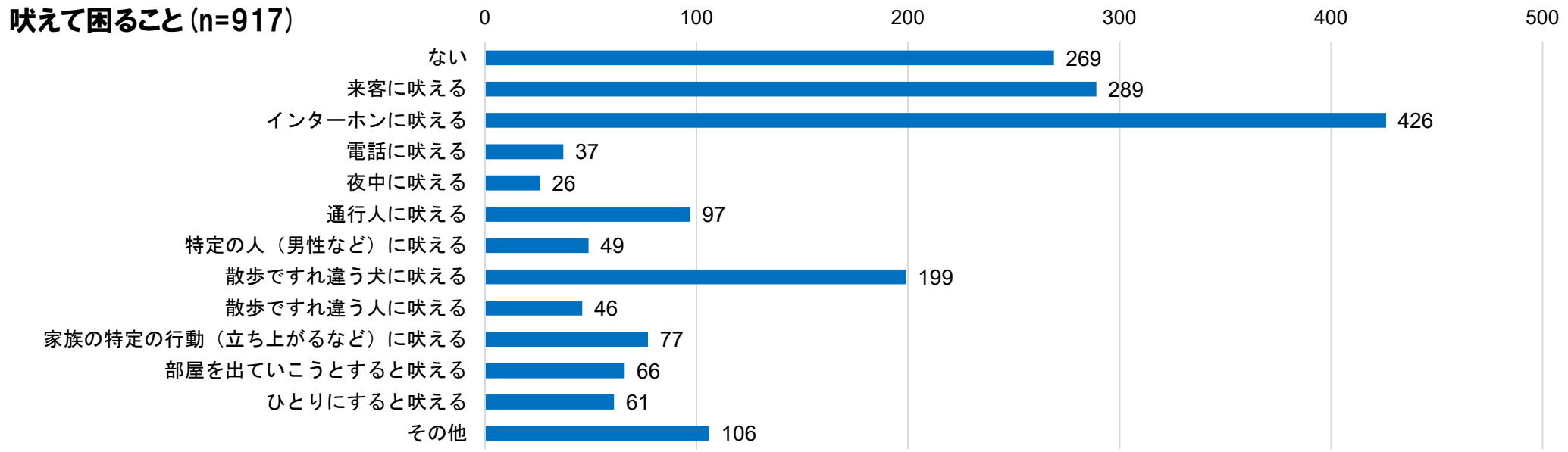
問題があったときに誰に相談したいか（n=917）



もし今後犬の問題行動がみられた時にだれに相談したいかを聞いたところ動物病院スタッフが約72%と最も多かった。何らかの問題で困っているときはインターネットから情報を得るのに対し、これから起こりうる問題に関しては信頼できるプロに相談したいと考えるのか、病院スタッフとトレーナーと回答した人の割合が高かった。

2.回答結果⑨

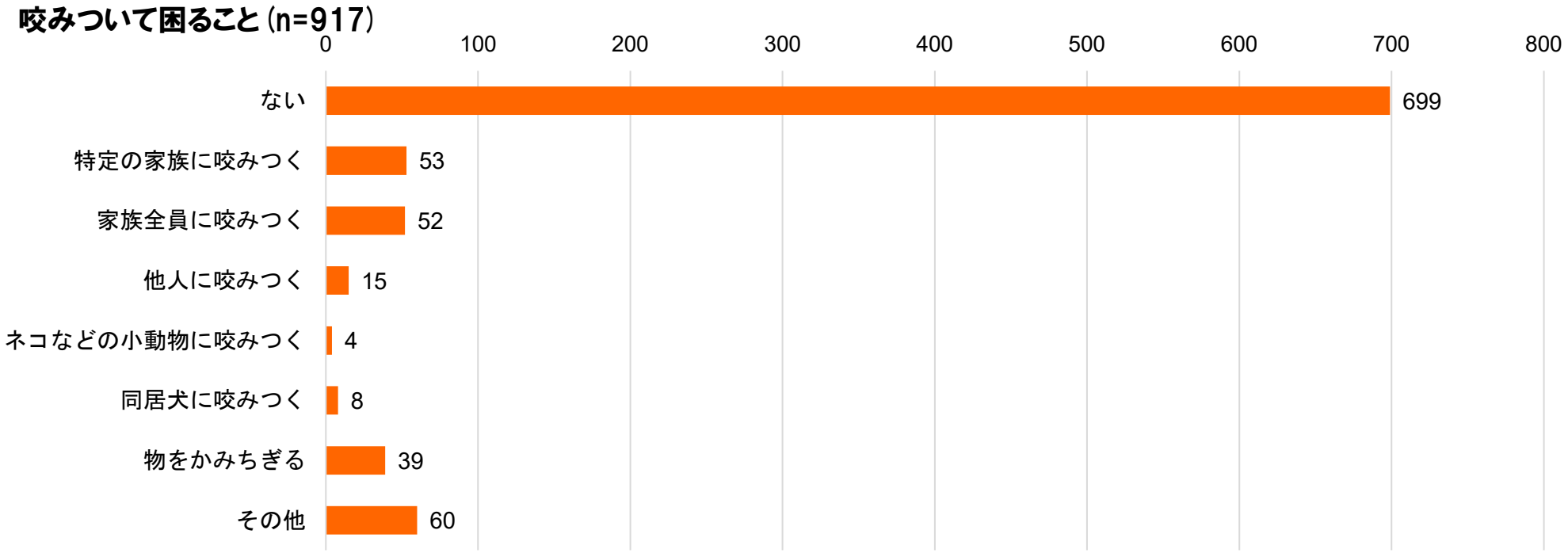
吠えて困ることはありますか？（複数回答可）



犬の困った行動として「吠える」と「咬む」が、通常、動物愛護管理センターや保健所への相談内容としては多いため、問題の中でもその2点を訊いた。吠えて困ることがある、の問いに対して、インターホンが鳴った際に吠える行動が約46%の犬で報告され、また次に来客に対しての吠える行動であった。コロナ禍でのステイホームの関係から宅配や郵便のサービスを受けることが増えた時期でもあるため、問題視する方が増えていることも考えられる。犬のしつけについて知りたいことの質問項目の中でも、チャイムに対する吠えの行動が1番多く、32.5%を占めた。チャイムに吠える行動に関しては困っているししつけで治したいと考える問題のようである。

2.回答結果⑩

咬みついて困ることはありますか？（複数回答可）

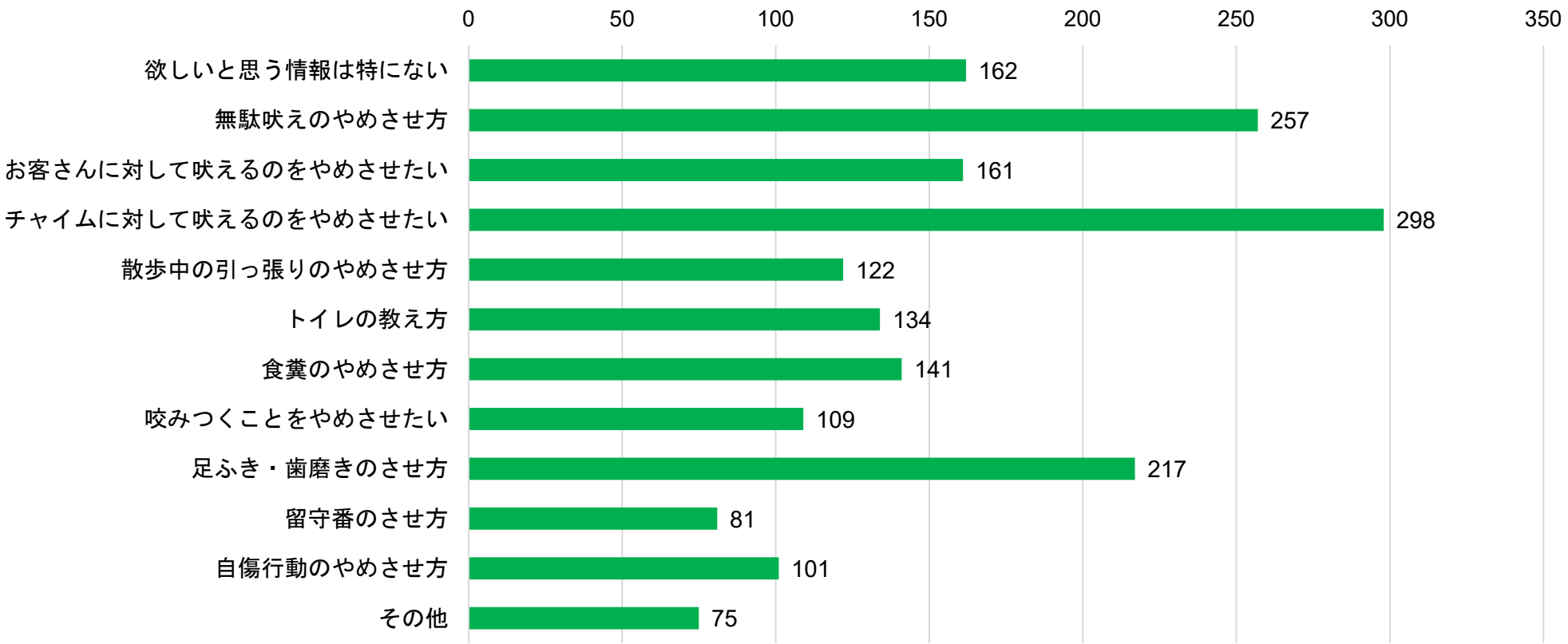


咬みついて困ることに関して聞いたところ、76%が「ない」と回答している。しかし、病院を受診するほど飼い犬に咬まれたことはあるかの問いに対し、909名の回答者のうち7%の61名がはい、と回答しており、しつけに関して知りたいことの問いに対して回答者917名中109名は「咬みつくことをやめさせたい」とで回答している。

2.回答結果⑪

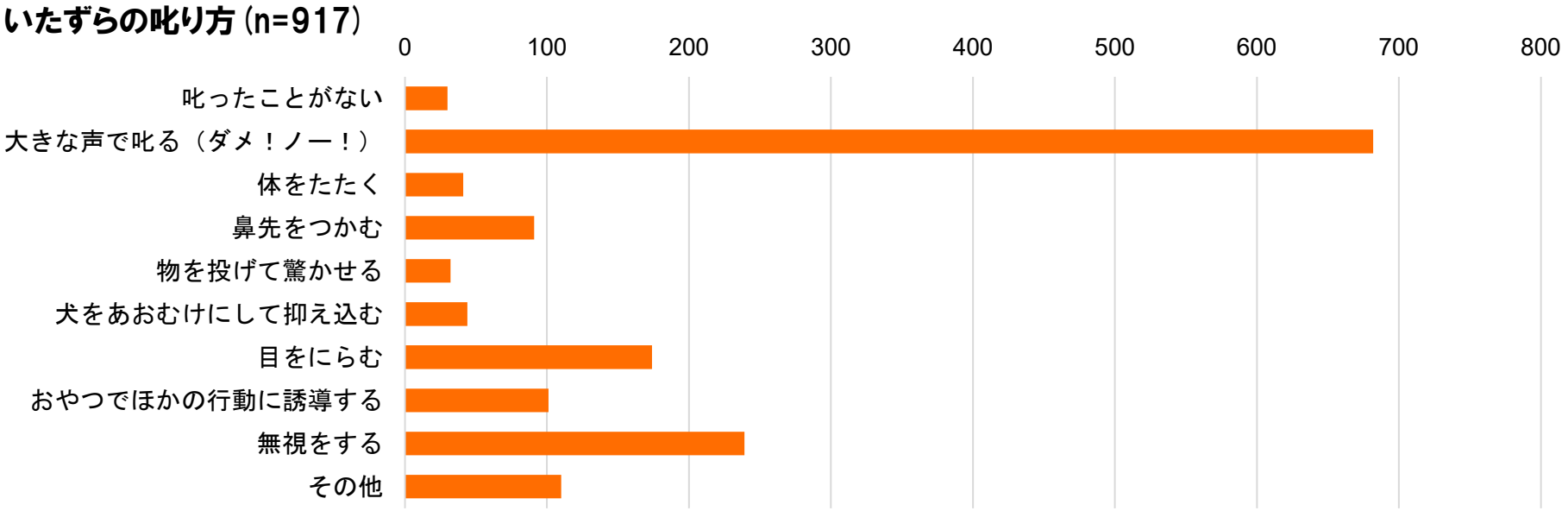
犬のしつけ方についてどのような情報が欲しいですか？（複数回答可）

犬のしつけについて知りたいこと（n=917）



2.回答結果⑫

犬がいたずらなどいけないことをした時、あなたはどうやって叱っていますか？（複数回答可）



犬がいたずらをする、あるいは人にとって不都合なことをした場合にどのように叱っているか質問した。およそ75%の方が大きな声で「ノー」などの声を出して叱っていることが判明した。大きな声や音で行動を制止しているだけで、犬にそのあと何をすべきかを伝えていないことが具体的なしかり方を問うた自由記載項目から読み取られ、問題行動があったり不都合な行動をした際に上手に犬をほかの行動に誘導したり、犬を理解して対処する方法が全く浸透していないことがうかがえた。